

JR東海労なごや

2020年 2月29日 No.1163
JR東海労名古屋地方本部
発行者： 荻野 隆一
編集者： 教 宣 部

2020JR総連春闘を職場から闘おう！

JR東海労名古屋地本第30回定期地本委員会開催

JR東海労名古屋地本は、牧野コミュニティーセンターにおいて第30回定期地本委員会を開催し、2020JR総連春闘を中心とした春の闘いを職場から取り組むことを確認しました。上田副委員長の開会ことばのあと、議長に伊勢運輸区分会東委員を選出し委員会が始まりました。

会社の体面重視の姿勢を批判



冒頭荻野地本委員長から「新型コロナウイルス感染症の対応でJR東海会社は、社員より世間体を気にする姿勢が問題だ。そういった中でようやくマスク着用が認められた。成果を巡り東海ユニオンが盛ん宣伝しているが、問題は働く者が働きやすくするためにどうするかだ。これまでの会社との対応を見れば誰もが分かっている。『新人事・賃金制度』見直しについても、あまりにも現場の社員が報われない制度だ。解決するまで取り組みを強化してゆく。また春闘が崩壊してゆくなかで、私たちは、2020JR総連春闘として労働組合らしく闘ってゆく。集中旅客サービスが拡大されようとしている、安全面や体の不自由な方の対応など問題を解決するため奮闘する」と挨拶しました。

来賓に木下本部委員長、加藤執行委員、松山特別執行委員、を迎え代表して、木下本部委員長から挨拶に続き、鉄道ファミリーから加藤担当部長からも挨拶を受けました。

活動報告に続き方針が提起される

執行部から大会以後の活動報告がなされ、続いて執行部から方針が提起されました。提起をうけて、質疑行われ、参加委員から職場の報告や取り組みが報告されました。

発言は、出向先や運転職場の問題など職場の問題点が多くだされ、とりわけ運転職場においては



高齢者の仕事のあり方などの発言がありました。執行部各担当から答弁に続いて御辺書記長から問題解決に向け取り組みをさらに強化してゆくと総括答弁がありました。

提起された方針は満場一致で可決され、春の闘いに向け意思一致がなされました。

最後に荻野委員長の団結ガンバローで閉会しました。

